

事務所における環境保全の取組み

本社・辰巳オフィス・支店・営業所は、各事務所管理会社の環境管理体制に応じた取組みを行っています。

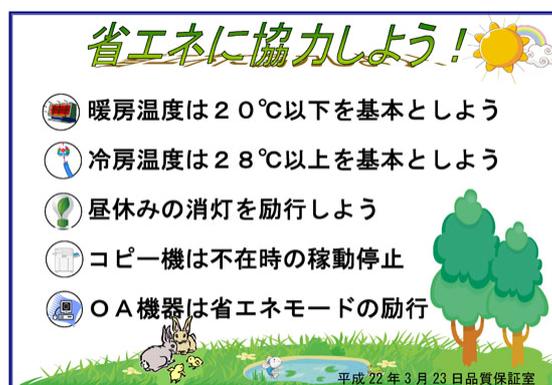
◆ 2009年度環境保全

	単位	2009年度	2008年度	2007年度
総エネルギー使用量（燃料原油換算）	kl	415.0	394.7	398.8
電力	kl	304.7	289.0	298.0
燃料	kl	110.3	105.7	100.8
水使用量	m ³	8892	7137	4340
二酸化炭素排出量	t-CO ₂	780.0	750.2	755.0
廃棄物発生量	t	450.1	331.4	137.4

エネルギー使用量、水使用量、廃棄物発生量について全て増加しました。これは、昨年度までデータ取得できなかった事業所の分が今年度から加算されたため増加しました。これで支店だけでなく営業所まで全ての事業所が省エネ活動に加わったこととなります。今後はこれをペースに管理していきます。

◆ 支店等事務所における環境活動

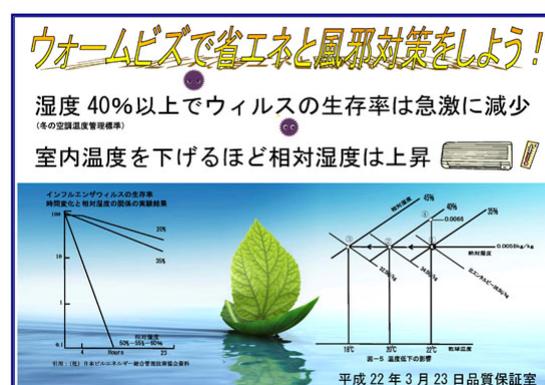
- ・ 環境目標達成の為の啓蒙ポスターの作成
- ・ 省エネ： 昼休みの消灯、空調の温度調節、クールビズ、ウォームビズ
- ・ 事務用品のグリーン購入推進
- ・ 社内パソコン配送用通い箱の導入など



省エネに協力しよう!

- 暖房温度は20℃以下を基本としよう
- 冷房温度は28℃以上を基本としよう
- 昼休みの消灯を励行しよう
- コピー機は不在時の稼働停止
- OA機器は省エネモードの励行

平成22年3月23日品質保証室



ウォームビズで省エネと風邪対策をしよう!

湿度40%以上でウィルスの生存率は急激に減少
(冬の空調温度管理標準)

室内温度を下げるほど相対湿度は上昇

インフルエンザウィルスの生存率
湿度40%以上で生存率は急激に減少

10℃ 15℃ 20℃ 25℃ 相対湿度
10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

平成22年3月23日品質保証室

事例： 電子データ利用による用紙削減

(1) 電子決裁システム導入による環境効果

年間の決裁申請件数が増え、それに伴う作業時間、用紙使用量、書類の保管場所確保などに問題が出てきました。

- ・ 承認回覧や関連部署への配布に時間がかかる（拠点間の運送など）
- ・ 用紙の消費数が多い（決裁後のコピー配布など）
- ・ 書類保管の場所がない（年間ファイル 8cm 幅 × 10 冊程度）



これらの問題の対策として 2008 年 4 月より、印刷した文書の回覧により実施している決裁業務を一部電子化しました。決裁案件の内、申請件数が多くかつ記入内容が定型のものについて電子決裁を実施しました。（2007 年実績 海外渡航申請約 400 件、携帯電話約 100 件）

2008 年 4 月開始 …… 海外渡航申請、携帯電話購入申請

2009 年 11 月開始 …… 設備申請

効果：

正確な数値は出せませんが、申請者、決裁者（管理室）の両方で保管・配布用写しも含めて紙使用枚数を案件分削減できました。（電子決裁申請件数 2008 年度 496 件、2009 年度 807 件）

更に、2009 年 11 月より開始した設備申請では、ワークフローソフトの機能で、決裁記録書本体のエクセルデータに加えて、PDF で別紙資料を添付できるため、紙使用枚数の削減効果は更に高くなると考えられます。また、環境以外の効果として、決裁承認時間の削減（効率化）、情報共有化（一元管理）もあります。

(2) 電子損傷報告票配布によるペーパーレス、スピード改善

調達部門では、従来不適合が発生すると損傷報告票を発行し、紙に印刷してから郵便で当該メーカーに送っていましたが、2007 年 6 月よりメールを使い損傷報告票の発行と同時にその内容が瞬時にメーカーへ送付されるようになりました。

これに伴い原因・対策がスピーディーに行われ、紙だけでなく更なる不適合の削減（電気・材料などのムダ排除）に寄与しています。また、購買先殿からの再発防止回答も 2009 年 6 月よりメールで配信されるようになり、合わせて資源のムダ排除に寄与しています。

